



蘇南中学校の「自慢」は何ですか

国際教室主任 鷺見 靖子

蘇南中学校は全校生徒944名というとても大きな学校です。そして、そのうちの約20%、187名が外国人の生徒です。その中の約60名が国際教室で日本語を学んでいます。

先日、国際教室の日本語の授業で、作文の学習を行いました。テーマは「私の学校の自慢」です。生徒達は、「自慢」の意味を辞書で確かめ、テーマが理解できたところで一生懸命考えました。意見を出し合ううちに、たくさんの蘇南中学校の「自慢」を見つけることができました。

【国際教室で学ぶ生徒が見つけた学校の自慢】

- ・生徒数が多い。いろいろな人と友達になれるチャンスがある。
- ・国際教室があること。教室の授業は難しいけど、国際教室なら日本語や数学、社会を簡単な日本語で学べる。
- ・外国人がたくさんいること。いろいろ聞けて安心。
- ・先生がやさしくて面白い。
- ・クラスの仲間が優しい。困ったときに助けてくれる。
- ・授業評価オール10を目指して取り組む。
- ・体育大会や音楽会などの行事にがんばって取り組む。

国際教室があることや言葉の通じる仲間がいることは、彼らにとってとても身近なこ

となので、多くの生徒が自慢の一つに挙げていました。また、学校生活における仲間との関わりに関することも「自慢」として挙げている生徒もいました。

実際に、教室での学習の様子を見てみると、問題が読めなかったり、先生の話を十分に聞き取れなかったりして困っている時、すぐに周りの仲間が気付いて助けにいくという姿は、よく見られます。そういう優しさをもつクラスの仲間の存在は、確かに「自慢」の一つに違いありません。また、授業評価や行事への取り組みなどでは、仲間も、そして自分もがんばっています。だからこそ「自慢」だと感じることができているのだと思います。

蘇南中学校にはいろいろな生徒がいます。国籍が同じでも、考え方はみんな違います。異なる文化をもつ外国人ならば、さらに考え方は違うかもしれません。しかし、多様な考えをもつ人がいる中で、お互いの優しさや温かさに支えられながら「みんなでがんばる」ことができるのが蘇南中学校の生徒です。これからも生徒達が蘇南中学校での生活を通して、多くの「自慢」を作っていけるよう、寄り添っていきたいと思います。

